

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 令和4年7月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト縮減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
6	<p>(事業名・地区) 主要地方道出雲三刀屋線 社会資本整備総合交付金 事業 上島工区</p> <p>(事業位置) 出雲市上島町</p> <p>(事業費) 5,612,000 千円</p> <p>(事業概要) 出雲市上島町から雲南市三刀屋町伊萱間の未改良区間 4.8kmを現道拡幅およびバイパス整備をするものである。</p> <p>(事業主体の根拠) 道路法第 15 条</p> <p>(再評価区分) ②事業採択後 10 年を経過している継続中の事業</p> <p>(担当部課名) 土木部道路建設課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度：平成 25 年度 (2013 年) 用地着手年度：平成 25 年度 (2013 年) 工事着手年度：平成 27 年度 (2015 年) 完了予定年度：令和 9 年度 (2027 年) 経過年数：10 年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 進捗率（全体）：48% 〃（工事）：26% 〃（用地）：95% ※事業費ベース</p> <p>事業延長が長く、用地取得に時間を要したものの、現時点で用地買収は概ね完了している。 工事は現在起点側の浄水場下流区間にて整備を進めており、令和 6 年度（2024 年）に現道拡幅部 880m を供用予定。</p>	<p>(事業導入の経緯・目的) 本路線は出雲市と雲南市の中心部を連絡し、三刀屋木次 IC へのアクセス道路となる骨格幹線道路の一部である。現道は幅員狭小であることから大型車同士の離合が困難である。本事業により現道拡幅、バイパス整備をすることで、自動車交通の円滑で安全な通行の確保、地域の連携と交流、地域の活性化を図る。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 本路線は出雲市圏域と雲南市圏域を最短で結び、商工業、観光振興及び救急医療に極めて重要な路線となっており、公共交通の利便性向上が期待される。 また、救急医療施設である島根大学付属病院と地域を結ぶ要所の区間であり、地域医療への影響も大きい。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画の熟度) 出雲市の重点要望や、出雲地域幹線道路改良促進期成同盟会等も要望があり、早期の供用開始が期待されている。</p>	<p>(費用対効果) B/C=0.68</p> <p>(コスト縮減・代替案等) ①事業規模の妥当性 県条例に基づき、地域区分と計画交通量から、3種2級、設計速度 60km/h、道路幅員は 2 車線 (3.25 × 2+0.75+0.75) と歩道 (3.5 × 1) の全幅 11.5m とした。</p> <p>②事業方法の妥当性 経済性・早期効果発現を考慮し、現道拡幅を採用しているが、移転困難な浄水場採水地がある区間については、バイパスを採用している。</p> <p>③コスト縮減への取り組み 他工区の掘削残土を盛土材へ流用することにより、工事費を軽減。</p> <p>(その他の効果) 本路線は第 1 次緊急輸送道路に指定され、走行性及び安全性の向上が見込まれる。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 現道を活用し、地形の改変を最小限とすることにより、生活環境への影響を低減する計画とした。</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 円滑で安全な交通の確保、アクセスの利便性向上が図れない。 用地買収は概ね完了しており、事業を中止した場合は用地提供者や地元住民からの理解が得られない。 さらに地域の産業・経済・観光の発展などへの影響が懸念される。</p>	<p>(方針) 継続</p> <p>(継続の理由) 現在も事業の必要性は変わっておらず、これまで改良した区間の効果発現のためにも、早期の全線改良を図る必要がある。</p>

# 主要地方道 出雲三刀屋線 上島工区

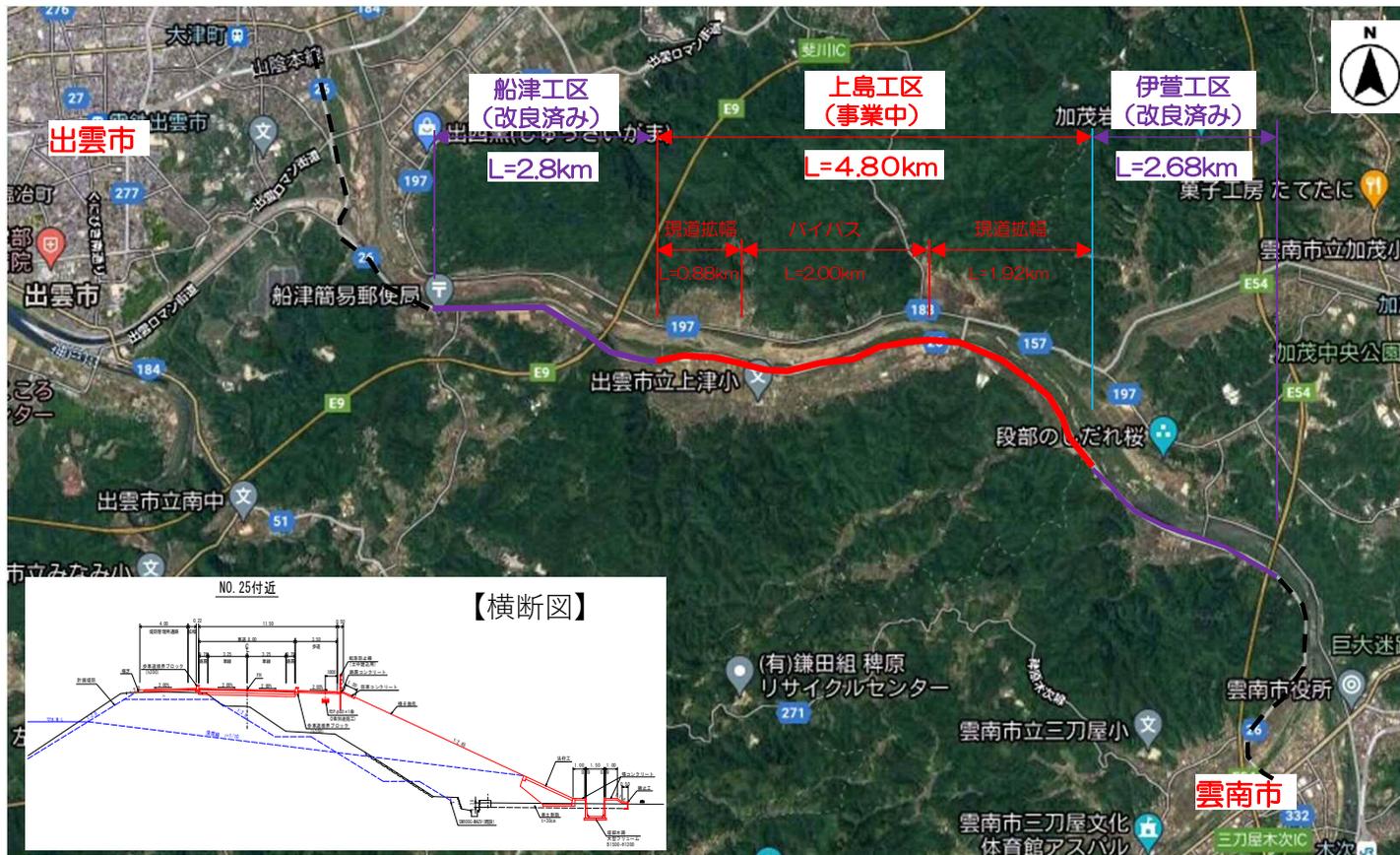
## 【路線の概要】

本路線は、出雲市の国道184号から雲南市三刀屋町の国道54号に至る骨格幹線道路で、出雲市と雲南市の中心部を最短で結び、商工業、観光振興及び救急医療に極めて重要な路線である。

また、緊急輸送道路に指定されており、防災面でも重要な役割を果たす路線である。

## 【事業の概要】

現道は斐伊川の河川堤防上に幅員6.0mが余裕無く乗っている状態であり、大型車同士の離合が困難な状況にある。本事業で現道拡幅、バイパス整備をすることで、自動車交通の円滑で安全な通行の確保及び地域の連携と交流、地域の活性化を目的として整備を図る。



【状況写真】

